

## 編集後記

『摂南大学教育学研究』第13号ができあがりましてので、お届けいたします。

昨年度は教員養成に関わる大きな改革の方向性が示され、今年度はそれがより具体化され、これを期に大学ではいよいよ主体的に教職課程の質保証に取り組み始めることになる……はずでした。実際は、すでに教職課程科目の大ぐくり化のイメージは公になっていますが、策定中とされる「教職課程コアカリキュラム」はいまだ不分明です。その内容によっては、教職課程科目の再編もどの程度の規模で進めたらよいか／進めなければよいかが大きく異なります。再課程認定の全体スケジュールそのものは確定的であるだけに、教職課程の質保証がより高い水準で図られた再課程認定に向けて具体的な再編の指針となる「教職課程コアカリキュラム」が示されなければ、改善に取り組む時間が逼迫し、余裕がないなかでの再編、再課程認定となってしまうことに、些かの不安や危惧を感じずにはられません。「教職課程コアカリキュラム」の一刻も早い公表を願うばかりです。

今号では新たに、前号(12号)のここでお名前だけ紹介した小山裕樹先生に登場していただいています。小山先生は教育哲学がご専門で、本学では「教育原理」や「道德教育の研究」などの科目を担当していただいています。本号では、そのうちの「道德教育の研究」の講義での実践を省察された論文を投稿してくださいました。

年々、教職支援センターの教員としての業務が多忙になるなか、本号も発行までには多難を要しました。多方面で労をとっていただいた方々に対し、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

今年度、来年度にかけて、教職課程運営の実務面で大きな動きがあることが上で述べたように決まっており、私たちの日々の教育実践も大きく変革が求められることになりそうです。実践と省察を交互に重ね、その成果を今後の『摂南大学教育学研究』にも著しながらこれを充実、発展させてまいりたいと思います。ひきつづき皆様のご理解・ご助力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

編集委員・幹事 朝日 素明